

「みらいのイクメンナースマン!!」

今回は南東北春日リハビリテーション病院の回復期リハビリテーション病棟で勤務している須藤善哉さんを紹介いたします。

震災直後の平成 23 年 4 月から南東北春日リハビリテーション病院へ入職し、4 年が経過しました。南東北春日を希望した理由に、実家から近いこと、回復期リハ看護に興味があったことと話してくださいました。新人教育計画での急性期看護を主に整形疾患、脳血管疾患を 2 年間経験し、回復期への異動となりました。

須藤さんが看護師を志したきっかけは、癌末期の祖父にどう声かけをしたらいいのかわからなかった時、入院中の祖父に対する看護師の自然な声かけに感動したことからです。看護師を目指すこととなったそうです。

「回復期病棟で 24 時間患者様に接している看護師として、チーム医療の要となり、患者様の気持ちや情報を他職種に提供することが重要な役割だと考えています。仕事の中で大切にしていることは高齢者の方と関わるとき自分の身内だと思って接することです」と話されていました。「すべては患者さんのために」を基本理念に日々努力していることは「麻痺などの障害がある患者さんの在宅での生活を見据え優先して看護していくこと。そして患者様が自信と達成感をもてるような支援をしていくこと」と熱く話されました。

プライベートではキャデラック SUV のアメ車を楽しみ回し、休日はブラックバス釣りやスノーボードを楽しむ



県南支部

南東北春日
リハビリテーション病院
須藤 善哉さん

新婚さんです。これからの目標は、回復期看護師として自宅での生活を考えた個別指導が一人でできること、またケアマネージャーの資格を取得し仕事に生かすことだそうです。さらに、厚生労働省主催 次世代育成支援対策推進「イクメン企業アワード 2013」初代グランプリの受賞に恥じない様、今後は**イクメン**を目指す予定? と話されていました。

また昨年からは看護連盟の青年部でも活躍され、若い力が期待されます。

看護職の方に伝えたいこととして「若い人に福島に残って（地元の看護に当たって）ほしい」と話してくれた福島を強く愛する心籟ナースでした。

聞き手 塩澤 紀子・鈴木さゆり